全力疾走

第94回選抜高等学校野球大会 出場記念

「小さな学校の大きな可能性」への挑戦

念願の甲子園初出場を果たした
2022年春の足跡

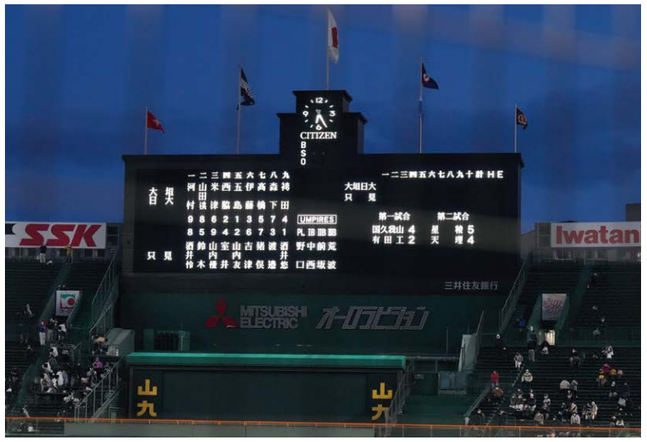
福島県立只見高等学校

只見高等学校 2022春 甲子園

TADAMI HIGH SCHOOL

祝

春の甲子園
初　出　場



福島民報社撮影

第94回選抜高等学校野球大会
《出場記念》

只見高校2022春 甲子園

CONTENTS

校歌 3
選抜出場決定!! 4
いざ、甲子園へ!! 県知事・市長訪問、選抜旗授与式 6
1回戦【大会4日目 3月22日】第3試合 大垣日大戦 8
選手紹介 20
マネージャー紹介 46
甲子園SNAP 48
応援団 52
監督インタビュー 54
第73回秋季東北地区高等学校野球 福島県大会 56
記念誌発刊によせて・ご挨拶 58
編集後記 64

校歌

作詞 丘 灯至夫
作曲 戸塚 三博

一. 要害山の 空青く やさしき花は 雪つばき
あこがれこめて 学び舎に 鍛えてつねに 希望あり
ああ 只見 只見高校

二. きらめく夢を 浮べつつ 文化を運ぶ 只見川
明るく清く 学び舎に 励めば心 豊かなり
ああ 只見 只見高校

三. 吹雪はいかに 荒れるとも 浅草岳は たじろがず
教えを胸に 学び舎に 仰げば未来 光あり
ああ 只見 只見高校

選抜出場決定!!

選抜出場決定 監督から選手へ報告

選抜出場決定 校長から野球部へ報告

選抜出場決定懸垂幕

選抜出場決定時の選手

選抜大会入場行進撮影(2022.3.8)

選抜出場決定時の選手(2022.1.28)

選抜大会オンライン抽選会

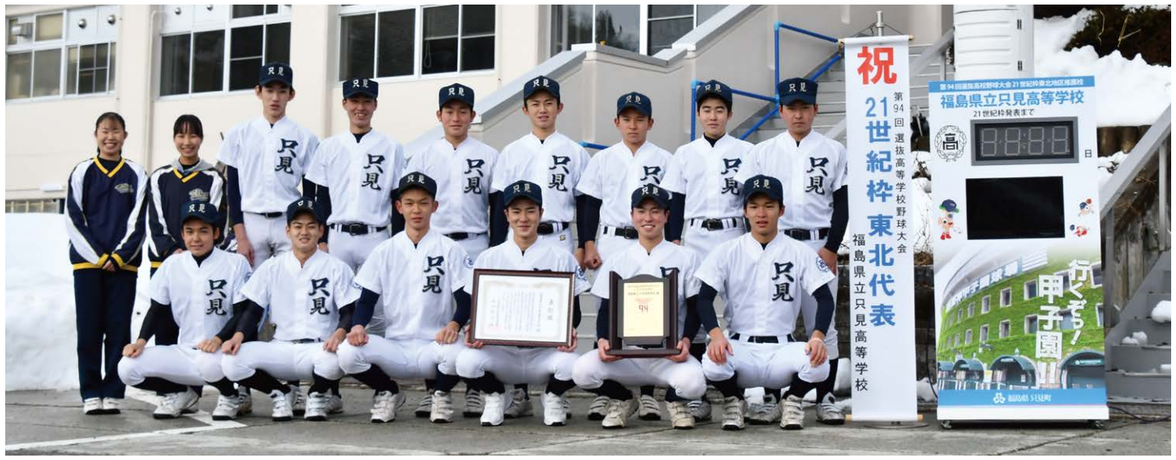
ユニホーム贈呈

福島県推薦校表彰(2021.11.26)

福島県推薦校表彰式(2021.11.26)

東北地区候補校決定(2021.12.10)

東北地区候補校表彰式(2021.12.14)



東北地区候補校決定(2021.12.14)

校長室 選抜出場決定連絡(2022.1.28)思わずガッツポーズをする伊藤勝宏校長

選抜旗授与式（2022.2.21）、壮行式（2022.3.8）、出発式（2022.3.9）

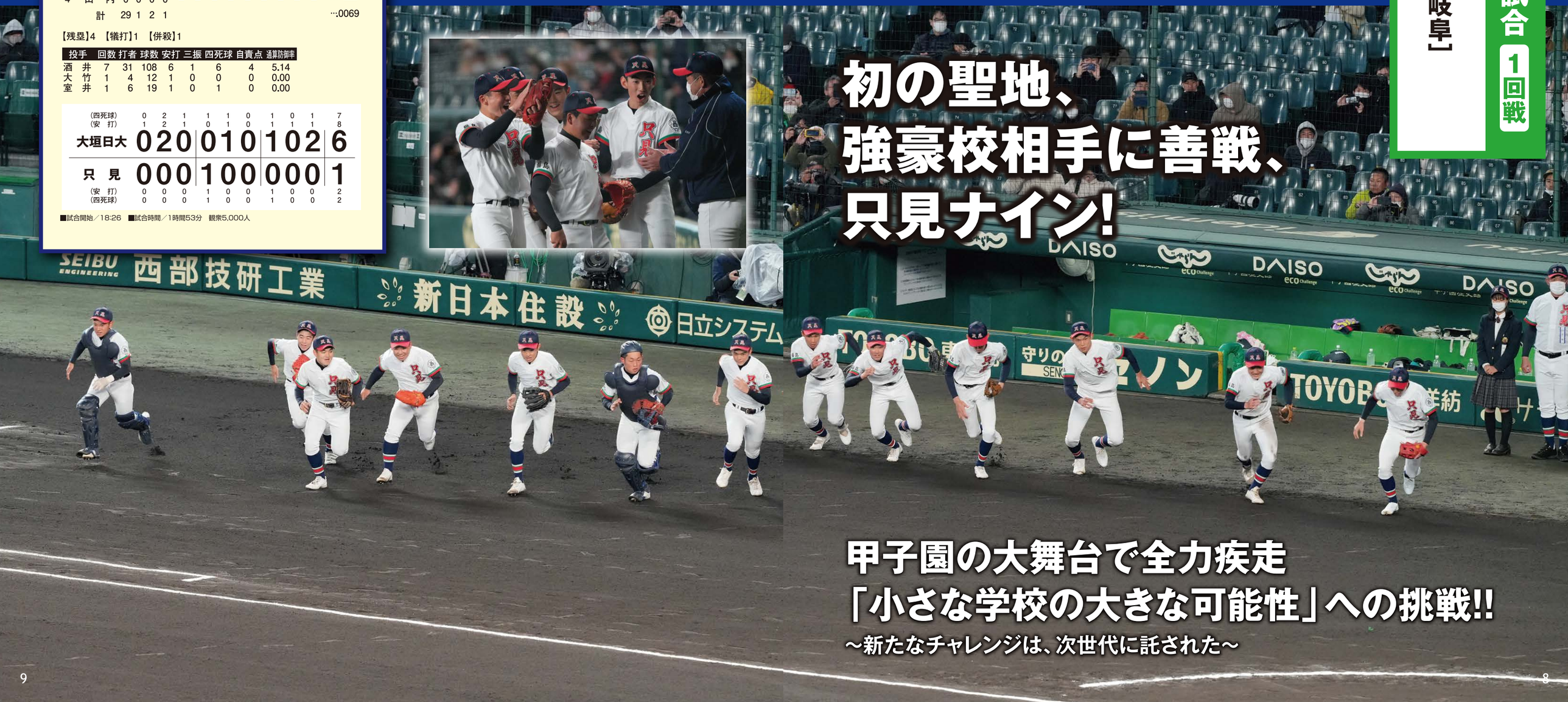
県知事・県教育長表敬訪問（2022.2.24）

内堀雅雄 福島県知事を表敬訪問　左から鈴木部長、伊藤校長、吉津主将、内堀知事、長谷川監督

鈴木淳一 福島県教育長を表敬訪問　左から鈴木部長、伊藤校長、吉津主将、鈴木教育長、長谷川監督

大会4日目【3月22日】第3試合 1回戦

大垣日大 戦【岐阜】



初の聖地、強豪校相手に善戦、只見ナイン!

甲子園の大舞台で全力疾走
「小さな学校の大きな可能性」への挑戦!!

～新たなチャレンジは、次世代に託された～

運命の日がやってきた。第94回選抜高等学校野球大会は、第4日目、3月22日(火)を迎えた。朝から雨天のため、午前9時開始予定であった第1試合が、約3時間半遅れの午後0時28分に始まり、また、第2試合も見応えのある延長戦となり、最後の第3試合の只見は、約4時間半遅れのナイターの試合となった。午後6時26分に始まり、午後8時19分に終了し、これまでの大会で最も遅い試合の開始と終了の時間となり、まさに歴史に残る試合となった。

この日、バスで甲子園入りした全校生徒・教職員57人と全国から約800人の応援が駆けつけ、塁側アルプス席は、緑色のキャップやスタジアムジャンパーで只見グリーン一色に染まった。また、兵庫県立東灘高等学校と神戸鈴蘭台高等学校の吹奏楽部員と在校生が、友情応援にかけつけていただき、気温が低下し手足がかじかむ寒空の下であったが、選手の応援曲を演奏するなど、力強い応援で最後の最後まで選手の後押しをしてくれた。2回裏には、聖地の甲子園球場に、只見高校の校歌が響き渡った。

結果は、マネージャー2人を含めた部員15人が、1勝で勝利を目指したが、1対6で大垣日大高校(岐阜県)に敗れてしまった。しかし、選手たちは、甲子園の大舞台でチームのモットーである「全力疾走」でプレーし、終始、笑顔の全員野球でのびのびとしたプレーを見せ、全国から応援に駆け付けた大応援団から、温かいエールと惜しみない拍手が送られ、「感動をありがとう!」という言葉をたくさんいただいた。

試合経過としては、聖地のマウンドの先発は、独特のフォームで安定感のある酒井悠来選手(3年)。立ち上がりは、ヒットを許したが、大事な場面でダブルプレーが出るなど0点に抑えた。その後、2回に2点を先制されたが、主将・吉津塁選手(3年)らが、難しいゴロを好守でアウトするなど、相手に流れを許さず、7回4失点の粘りの投球を見せた。

「只見グリーン」に染まったアルプス席が、最高潮のボルテージに達したのは4回裏であった。1番酒井怜斗選手(2年)が、四球を選んでチームとして初出塁すると、続く2番鈴木詠大選手(2年)が、好投手左腕の難しい球を確実に犠打を決め、走者を得点圏である2塁に進めた。その後、相手守備の乱れも絡み2死二三塁となり、このチャンスを見逃さず3番山内友斗選手(3年)が、内角の直球を鮮やかに右前にはじき返し、三塁走者の酒井選手がホームベースに生還し、長谷川清之監督とチームメイトに迎え入れられた。甲子園のスコアボードに歴史的な1点が記録され、その光景を見ていたスタンドの大応援団は、歓喜に沸いた。甲子園で記念すべき初安打が初得点につながり、この1点は、豪雪地帯の只見町で長年指導に当たってきた長谷川監督、そして会津地方の学校として初の得点となった。

7回には、再びチャンスが訪れ、6番吉津選手が死球で出塁すると、7番猪俣智生選手(3年)が、2本目の安打となる左前打でつなぎ得点圏に走者を進めた。しかし、打線が続かず惜しくも2点目にはつながらなかった。

8回には、3本柱の投手の1人である大竹優真選手(3年)が、酒井選手に代わって登板し、長身から投げ下ろす変化球を武器に力投し、無失点で切り抜けた。9回には、4番室井莉空(3年)が登板し、3人で継投した。

また、控え選手であった羽染治樹選手(2年)、佐藤央崇選手(3年)、山内太喜選手(2年)が代打で出場するなど、選手13人全員が出場を果たし、長谷川監督の采配による只見高校の甲子園での戦いが幕を閉じた。

21世紀枠での甲子園出場が決定してから、全国から多くの支援やメッセージが寄せられたことから、これまでの感謝の意を込めて、全力疾走で戦い抜いた一人一人の心に残る試合となった。再び甲子園の聖地に戻ってきたい思いは、次世代へ受け継がれることになった。

(試合当日、3mの積雪がある只見高校事務室にて　松田香樹)

【大垣日大】	打	得	安	点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	通算打率
⑨ 河村	4	3	1	0	中飛	遊ゴ	－	－	四球	－	左2	－	三失	….250
⑧ 山田	2	0	1	0	二安	－	遊ゴ	－	投犠	－	投犠	－	一犠	….500
⑥ 米津	3	0	1	2	二併	－	一飛	－	左2	－	四球	－	左犠	….333
② 西脇	3	0	1	2	－	ニゴ	四球	－	投ゴ	－	中犠	－	左2	….333
① 五島	4	1	1	0	－	四球	左安	－	一直	－	－	投ゴ	ニゴ	….250
③ 伊藤	4	0	0	0	－	左飛	投ゴ	－	－	二失	－	一飛	－	….000
⑤ 髙橋	3	1	2	1	－	右安	－	ニゴ	－	投犠	－	右安	－	….667
⑦ 森下	3	0	0	0	－	四球	－	三振	－	左飛	－	右飛	－	….000
④ 袴田	2	1	1	1	－	右安	－	四球	－	右飛	－	－	四球	….500
計	28	6	8	6										….286

【残塁】8　【犠打】5　【併殺】0

投手	回数	打者	球数	安打	三振	四死球	自責点	通算防御率
五島	9	32	129	2	18	2	0	0.00

【只見】	打	得	安	点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	通算打率
⑧ 酒井	3	1	0	0	三振	－	－	四球	－	三振	－	三振	－	….000
⑤ 鈴木	3	0	0	0	二飛	－	－	投犠	－	三振	－	三振	－	….000
⑨ 山内	4	0	0	0	三振	－	－	三振	－	三ゴ	－	－	三振	….000
④1 室山	4	0	0	0	－	三振	－	二失	－	右飛	ニゴ	－	遊ゴ	….000
② 山内	3	0	1	1	－	三振	－	右安	－	－	遊ゴ	－	－	….333
H 佐藤	1	0	0	0	－	－	－	－	－	－	－	－	三振	….000
⑥ 吉津	2	0	0	0	－	二飛	－	三振	－	－	死球	－	－	….000
⑦ 猪俣	3	0	1	0	－	－	三振	－	三ゴ	－	左安	－	－	….333
③ 渡邉	3	0	0	0	－	－	三振	－	三振	－	三振	－	－	….000
① 井竹	2	0	0	0	－	－	三振	－	三振	－	－	－	－	….000
1 大羽	0	0	0	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	…—
4 山内	0	0	0	0	－	－	－	－	－	－	－	ニゴ	－	….000
計	29	1	2	1										…:0069

【残塁】4　【犠打】1　【併殺】1

投手	回数	打者	球数	安打	三振	四死球	自責点	通算防御率
酒井	7	31	108	6	1	6	4	5.14
大竹	1	4	12	1	0	0	0	0.00
室井	1	6	19	1	0	1	0	0.00

(四死球)		0		2		1		1		1		0		1		1	7
(安打)		1		2		1		0		1		0		1		1	8
大垣日大	0	2	0	0	1	0	1	0	2	0	1	1	2	1	1	6	
只見	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	
(安打)		0		0		0		1		0		0		1		0	2
(四死球)		0		0		0		1		0		0		1		0	2

■試合開始／18:26　■試合時間／1時間53分　観衆5,000人

3月22日(火)18時26分　運命の試合開始!今回、初のナイターでの試合となった。

初回、ヒットを許すもゲッツーで切り抜ける

先発は、安定感のある酒井悠来

甲子園のグラウンドで笑顔と全力疾走

粘り強い打撃を見せる2番鈴木

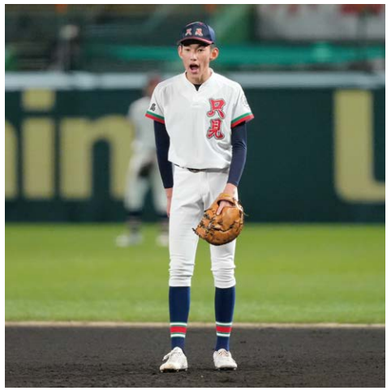
リードオフマン1番酒井(怜)

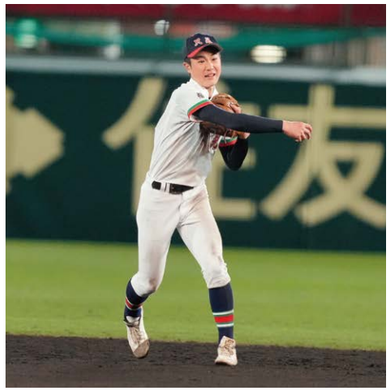
ファーストコーチャーとして役目を果たす山内(太)

3番山内(優)気合十分

軽快なフィールディングや安定したスローイングが持ち味の吉津(左側)と山内(友)

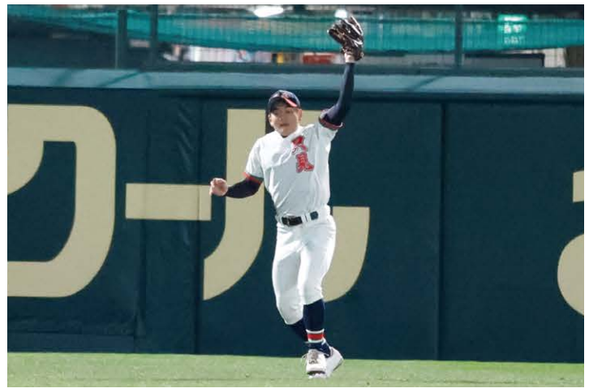
冷静に相手を分析するサードコーチャー佐藤





声で仲間を鼓舞する左側から渡邊、室井、鈴木

いつ出番がきてもいいように準備を進める山内（太）（左側）と羽染

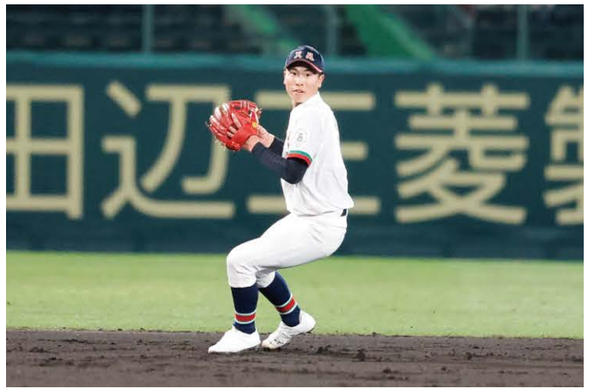


安定した守備でチームを支えるレフト猪俣

間のフライを必死で追うも、2回表に2点を失う。左から渡邉、室井、山内（優）

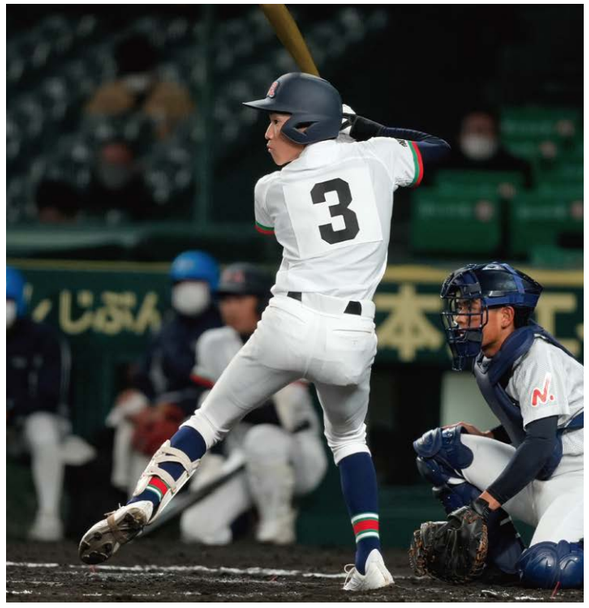
只見が誇る4番室井（左側）と5番山内（友）

二遊間を組む室井（左側）と吉津（右側）は、打線でも主軸を担う

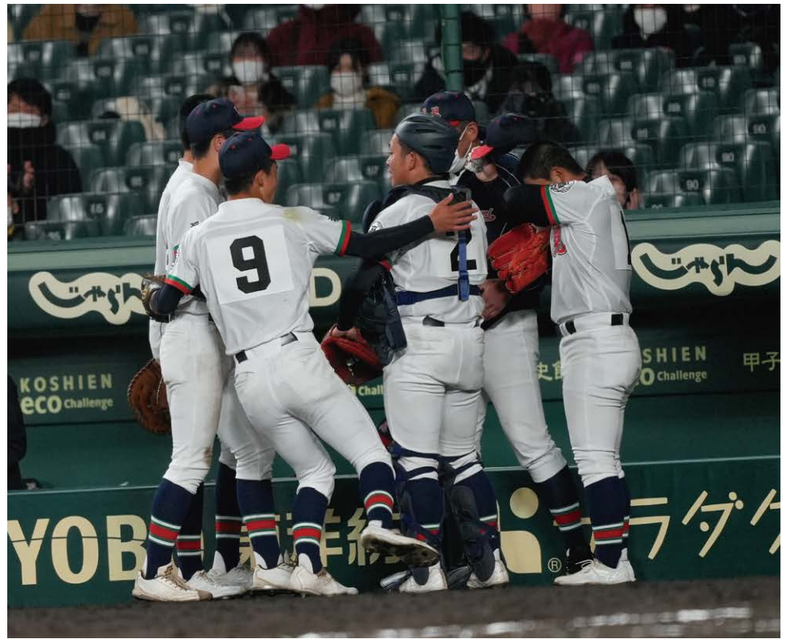


守備の要、ショート吉津　この日もファインプレーでチームを支える

堅守が光るサード鈴木

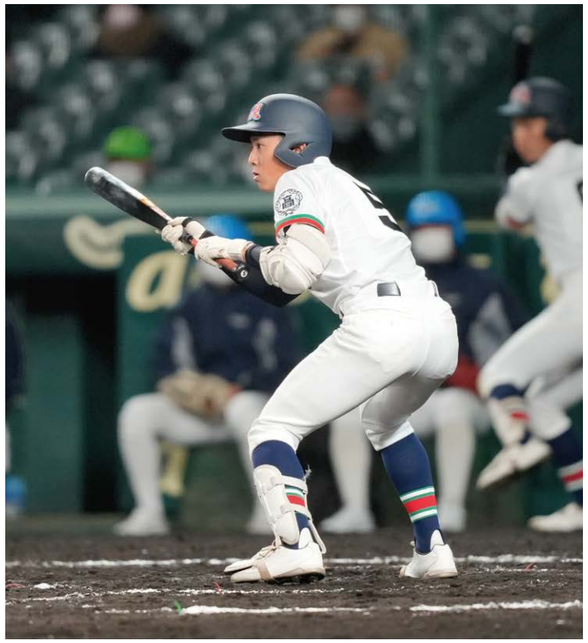


好投手相手に工夫を凝らす渡邉（左側）と猪俣



キャッチャー山内（友）が、盗塁を防ぎ流れを呼び込む

長谷川監督の指示のもと反撃開始！



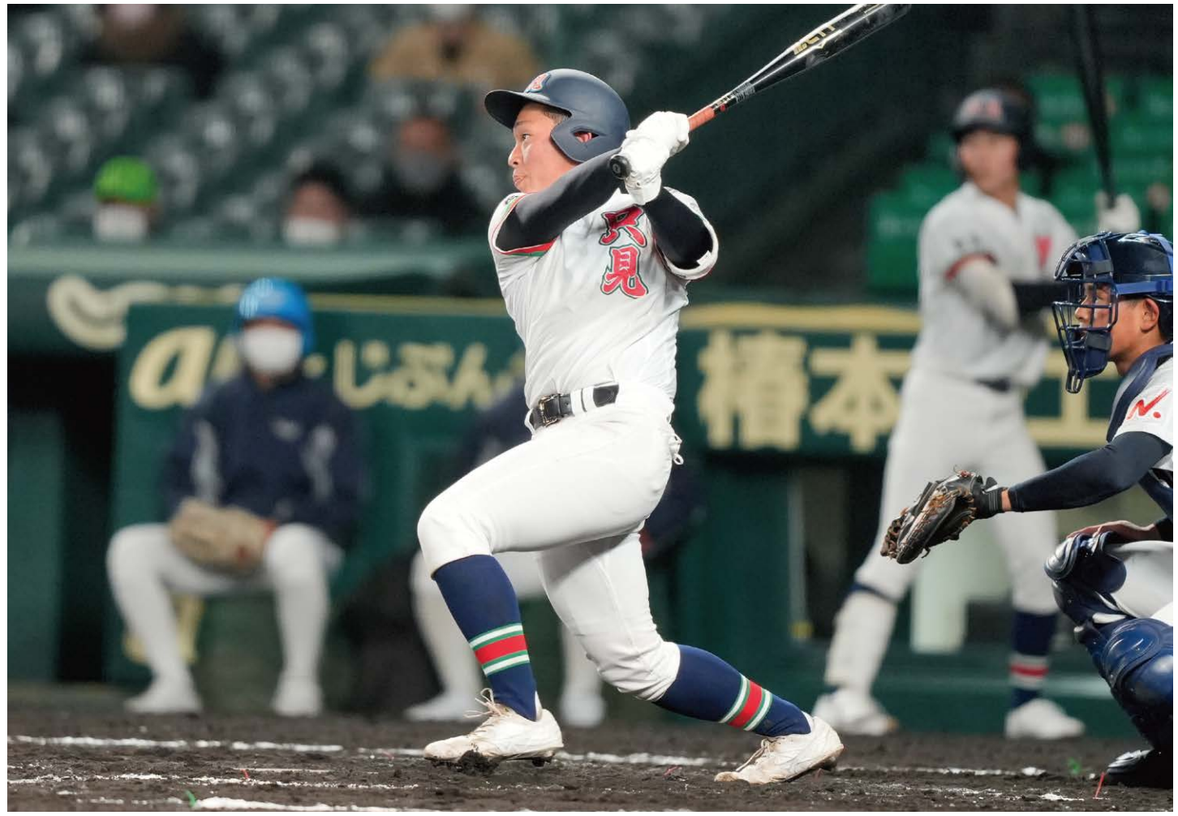
2番鈴木が練習を重ねてきたバントで送る

4回裏、四球を選びチーム初出塁

初めてのランナーを2塁まで送り、、、

4番室井も必死に食らいつく

4回裏、ツーアウト1塁、3塁　只見高校最大のチャンスが訪れる



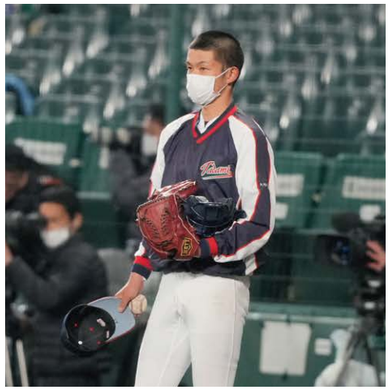
5番山内（友）のタイムリーヒットで、歴史に刻む1点をもぎとる

4回裏、ホームに生還する1番酒井（怜）を迎えるキャプテン吉津

初得点の喜びを分かち合うベンチ

アウトカウントを確認するセカンドランナー室井（左側）とコーチャー山内（太）

反撃ムードを後押しする羽染

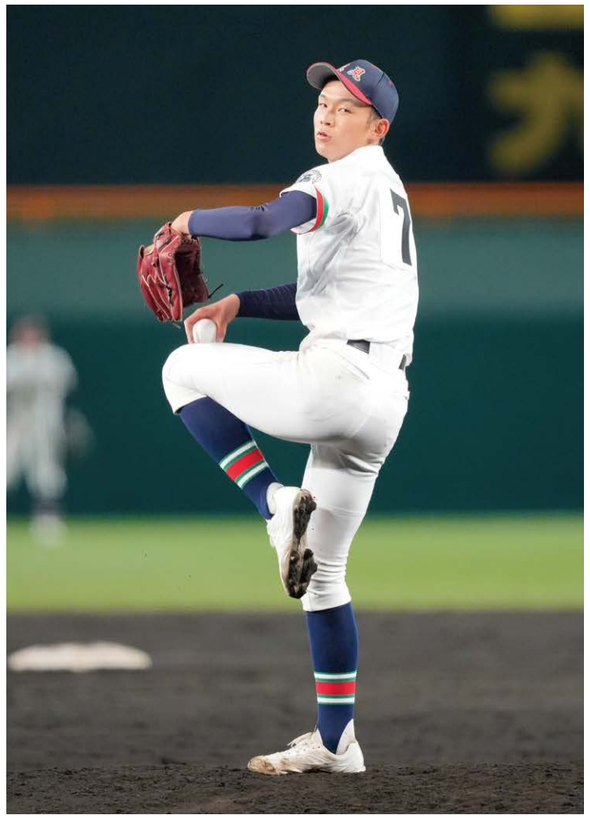


ピンチを切り抜けたチームメイトを迎える左から佐藤、山内（太）、大竹

只見高校2本目のヒットは、猪俣から

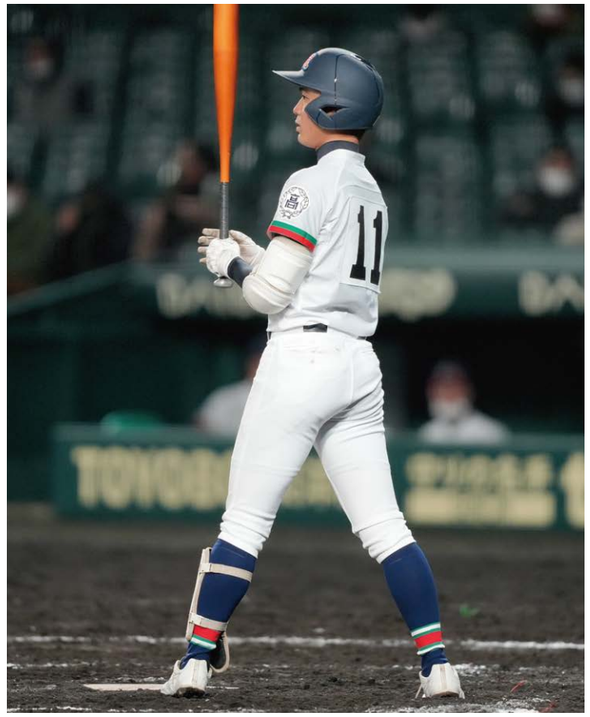
7回裏、キャプテン吉津のデッドボールをきっかけに再びチャンスが

強肩山内（優）（右側）と俊足酒井（怜）

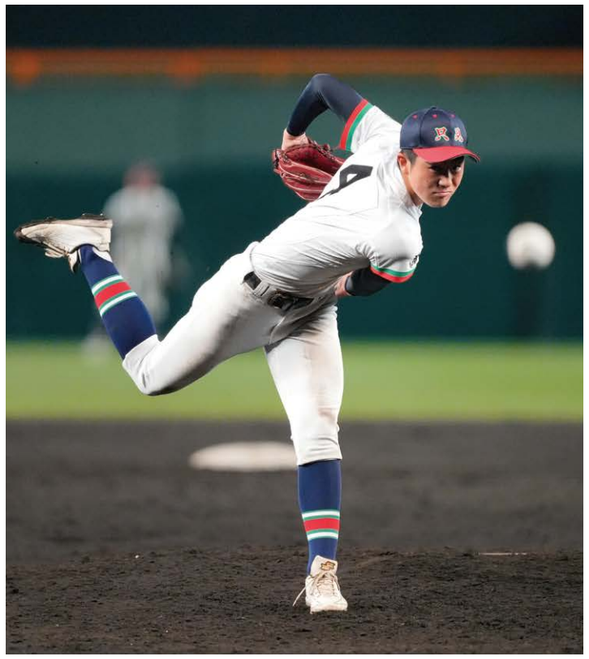


8回に登板し、見事無失点に抑えた大竹

代打佐藤のフルスイング



狙いをすませて打席に入る佐藤



9回から登板の室井、強打者に立ち向かう

守備から途中出場の山内（太）

全力疾走を果たした只見高校ナイン!感謝の意を込めて全国からの応援団にあいさつ

1 酒井 悠来

SAKAI HARUKU

SAKAI HARUKU

酒井 悠来

●投手
●只見中出身

甲子園のマウンドに立ったこと、兄弟でグラウンドに立ったことは一生の思い出になりました。甲子園に出場できたのは皆さんのおかげです。応援ありがとうございました。

YAMAUCHI YUTO

山内 友斗

●捕手
●只見中出身

21世紀枠で甲子園でプレーできたこと、それを支えてくれたさまざまな方々に感謝をしています。只見高校として甲子園で点を取ることができてよかったです。

2 山内 友斗

YAMAUCHI YUTO

WATANABE RUITO

渡邉 琉英斗

●一塁手
●会津若松市立一箕中出身

1時間53分という短い時間を、チームのみんなで甲子園に出場出来てとても幸せでした。応援してくださったみなさん本当にありがとうございました。

3 渡邉 琉英斗

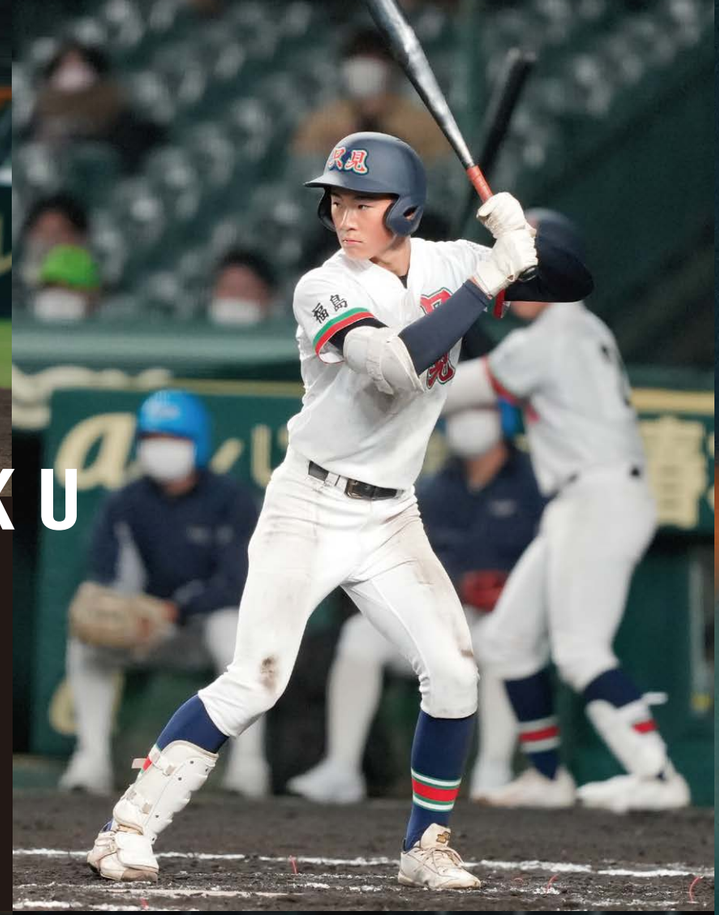
WATANABE RUITO

MUROI RIKU

室井 莉空

●二塁手・投手
●会津若松市立第二中出身

球場に入ってから試合が終わるまで本当に一瞬のように感じましたが、目標としていた場所でこのチームメイトと一緒に野球が出来て最高でした。応援ありがとうございました。



兵庫県立東灘高等学校写真部撮影

4 室井 莉空

MUROI RIKU

SUZUKI EITO

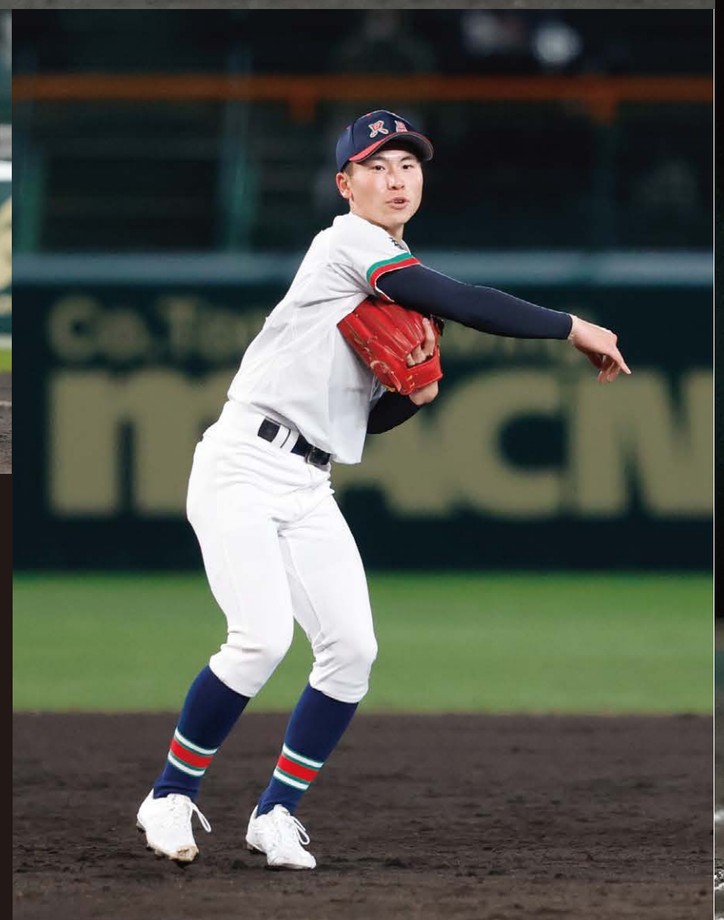
鈴木 詠大

●三塁手
●只見中出身

今までで1番短く感じた試合でした。球場に入ってから試合が終わるまでとても早く、全国レベルの野球を知りました。もう一度甲子園でプレーできるよう努力していきます。

5 鈴木 詠大

SUZUKI EITO



6 吉津 塁

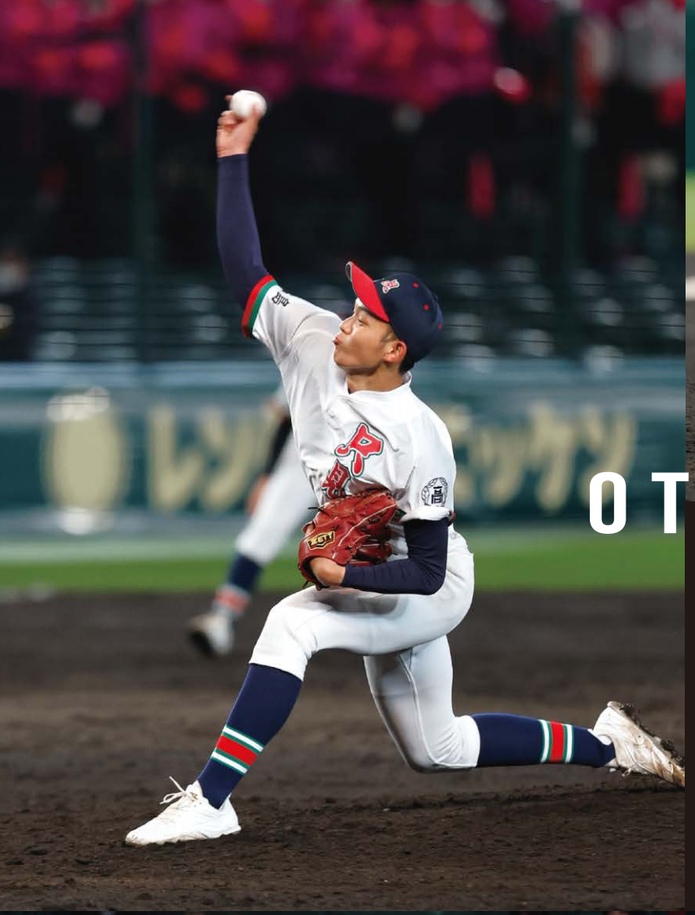
KITSU RUI

KITSU RUI

吉津 塁

主将　●遊撃手
●只見中出身

私達は、目標であった甲子園出場を果たし、全力で戦ってきました。15人で戦った1時間53分はとても短く一瞬で一生の財産となるものでした。もう一度甲子園へ行き、戦いたいです。



OTAKE YUMA

大竹 優真

●左翼手・投手
●只見中出身

多くの方々に支えていただき甲子園に出場することができました。自分達のモットーである全力疾走と笑顔を夢の舞台で貫くことができ一生の宝物になりました。

兵庫県立東灘高等学校写真部撮影

7

大竹 優真

OTAKE YUMA

SAKAI REITO

酒井 怜斗

●中堅手
●只見中出身

「甲子園」という夢の舞台でプレーができたこと、またホームベースを自分の足で踏めたこと、すべてが一生の宝になりました。またあの場所に戻れるように頑張っていきたいです。

8 酒井 怜斗

SAKAI REITO

YAMAUCHI YUSHIN

山内 優心

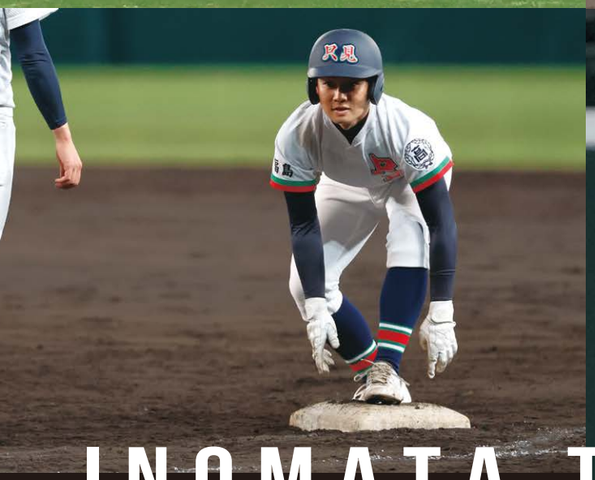
●右翼手
●会津若松市立一箕中出身

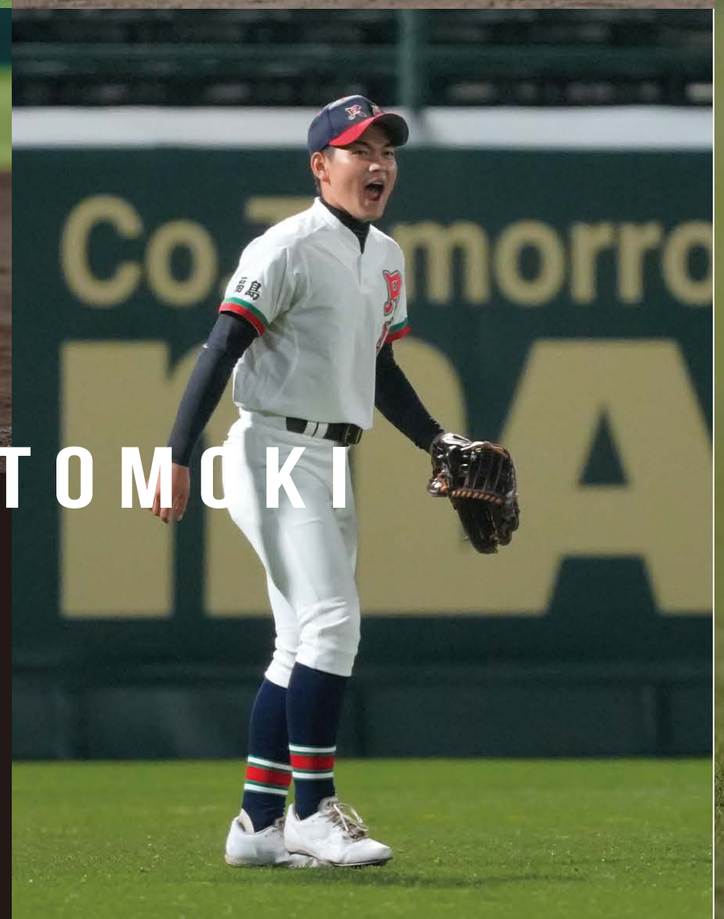
夢にまで見た甲子園。とても楽しく、そして一瞬だった。仲間達と頑張ってきた、自分たちの野球を全部出せたと思っている。そしてもう1度あの地に。Never give up!

9 山内 優心

YAMAUCHI YUSHIN

兵庫県立東灘高等学校写真部撮影





INOMATA TOMOKI

猪俣 智生

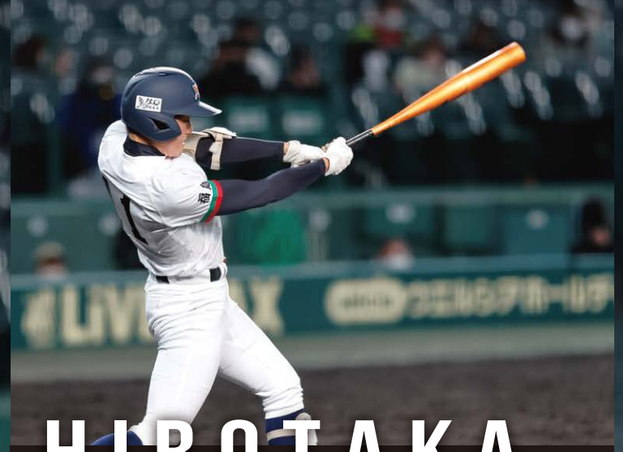
●左翼手
●会津若松市立第二中出身

自分がずっと夢見ていた甲子園という大舞台でチームのモットーである「全力疾走」を掲げ、思い切りプレーすることができました。とても良い経験になって一生の思い出になりました。

10

猪俣 智生

INOMATA TOMOKI



SATO HIROTAKA

佐藤 央崇

●投手
●只見中出身

今回の甲子園、短い時間の試合だったが全力を出し切ることができました。代打で出場をして、結果は三振でしたが全国クラスの投手と甲子園で対戦できて良かったです。

11 佐藤 央崇

SATO HIROTAKA

HASOME HARUKI

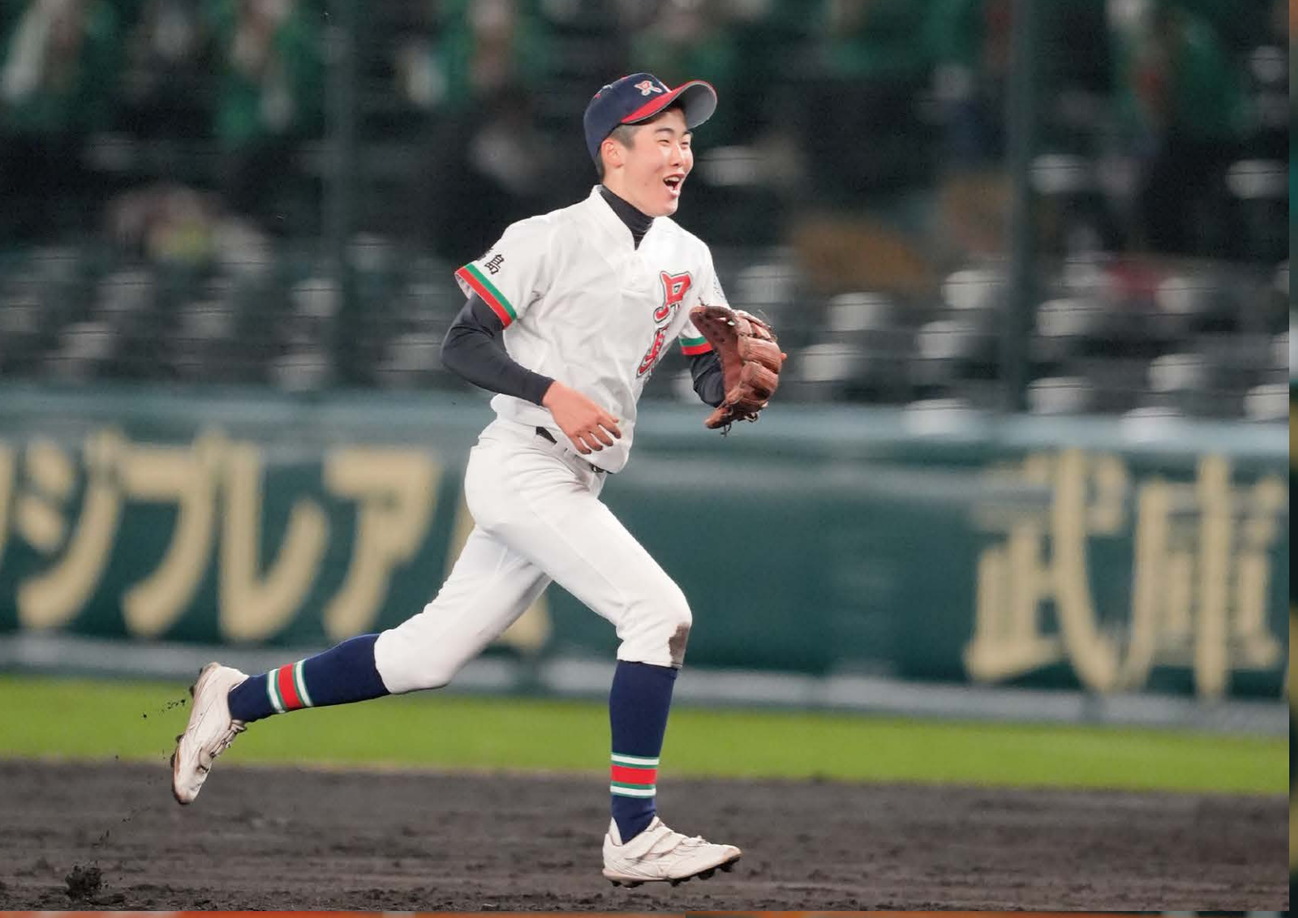
羽染 治輝

●捕手
●只見中出身

選手、マネージャーを含めた15人というチームで甲子園に出場出来たこと、本当に幸せでした。次は、自分が甲子園でプレーできるように、努力していきます。ありがとうございました。

12 羽染 治輝

HASOME HARUKI



YAMAUCHI TAIKI

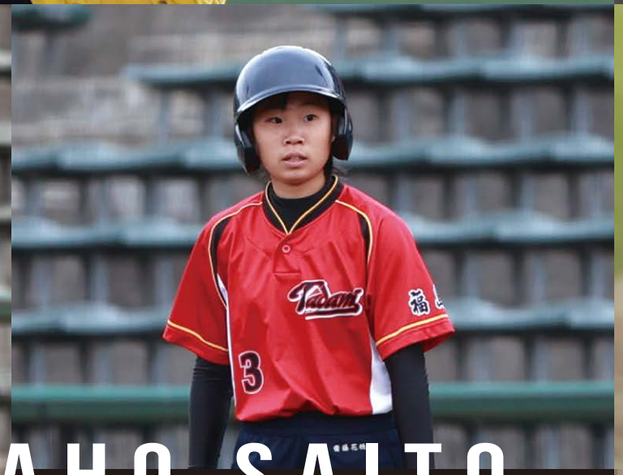
山内 太喜

●二塁手
●只見中出身

甲子園に出場することができて、最高の気分でした。セカンドを守って感じた甲子園の雰囲気は一生忘れられません。夏に甲子園へ戻ってこられるようチーム一丸となって頑張ります。

13 山内 太喜

YAMAUCHI TAIKI



KAHO SAITO

齋藤 花穂

マネージャー
●神奈川県茅ケ崎市立北陽中出身

甲子園ではスタンドでの応援となりましたが、その時間はあっという間でした。ここまでこられたのはたくさんの方の支援があってこそです。応援ありがとうございました。

MAKO WATANABE

渡部 茉子

マネージャー
●只見中出身

甲子園という夢の舞台で笑顔でプレーする選手達を見ることができ、楽しくて幸せでした。再び甲子園の地に立てるよう全力でサポートしていきます。応援ありがとうございました。

甲子園 SNAP 2022春

甲子園 SNAP 2022春

只見へのメッセージ：頑張れ！只見高校！（福井県・野球少女）

パブリックビューイング

只見町　季の郷 湯ら里

現地での応援

兵庫県立東灘高等学校写真部撮影

応援団責任者として

只見高等学校
応援団責任者
前教頭
佐藤　繁

只見高校ではいろいろな意味で本当に「濃い」2年間を過ごすことができました。3月31日にバタバタと引っ越しをしてから、ようやく全校応援を振り返る機会を得ることができました（現在7月…）。入試業務期間、そして何よりコロナ禍というイレギュラーな状況の中、21世紀枠の県代表決定から甲子園出場まで、毎日リボビタンDとともに怒濤のように走り抜けました。全校応援を成功させる迄は本当に必死で、総括する余裕など皆無の状況でした。頭も気持ちも整理できないまま4月1日全く新しい定時制高校勤務に突入して、甲子園（至る激務の反動ゆえ、4～6月は身体が悲鳴をあげており、お世話になった方々に大変ご無沙汰してしまいました。

各勤務校では優秀な生徒に恵まれ、高体連のインターハイ、高文連の総文祭、北海道から九州まで、県代表として様々な全国大会引率しましたが、まさに高野連、甲子園は別格でした。式典準備、マスコミ対応、表敬訪問、打合せと会議、様々な企画、日程調整に走りながら考える状態でした。そのような中、選抜経験豊富な兵庫県立東灘高校の徳山前校長先生には大いに助けていただきました。

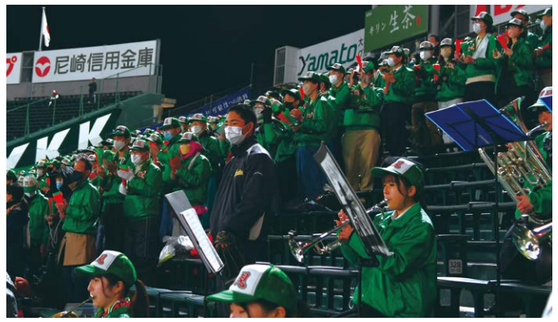
母校か勤務校でいつかアルプス応援をと夢見ていましたが、いざ、次々と立ちはだかる現実の壁を前に、心折れそうにもなりました。先が読めないコロナ禍、昨年に増す大雪、小規模校で教員が少ない中での各種準備作業、そして、開幕3日前の大地震（道路断絶により宮城からの看護師が急遽キャンセル）、30年ぶりの開幕雨天順延（日程すべてスライド、時間変更対応）。もう、何もないようにと願い只見をバスで出発したものの、関西に入ってからも試合当日の雨による時間変更につぐ変更対応、甲子園に入ってからも前試合の延長戦により、寒い中での長時間、全校生徒のネット裏待機……。ただ、初カクテルLEDの公式ナイター、最も遅い時間の試合として記憶、記録に残る、その歴史の現場にいることができました。ネット上の下馬評では21世紀枠が散々叩かれましたが、常連強豪校相手にしっかりゲームメイキングしながら全員出場させる長谷川監督の名采配、聖地を物ともせず、日本一の芝生上を笑顔で全力疾走、甲子園が小さく感じるほど堂々とプレーする選手諸君にあっという間の夢のような1時間53分でした。試合終了後の応援団責任者のバックネット裏本部打ち合わせでは、甲子園本部付きの先生方に「とても良い試合、良い応援だった」とお褒めの言葉をいただきました。選手同様、もう一度この場に帰ってきたくなるのがわかりました。

全国からの応援電話、メールを職員室で受けながら、何とか全国の応援の方々に対しても責任を果たすことができました。何もわからない中で、聖光学院の遠藤前教頭先生、小名浜海星の齊藤教頭先生、磐城の中澤教頭先生、県スポーツ課の滝田課長、各先輩方の指導を仰ぎながらも、一方で手が回らず不手際多く申し訳ない限りです。そして何より野球部長の経験豊富な伊藤勝宏前校長先生、文スポ局であらゆるイベントを成功させた松田事務長をはじめ、若い只見高の先生方のバックアップには本当に助けていただきました。町役場酒井文高さん、旅行業者トップツアー吉田会津支店長、主催毎日新聞高橋支局長、裏方として関わっていただいた方々に、この場をお借りしまして感謝申し上げます。

野球はやはり他とは違い、スポーツであり、かつ文化でもあると思います。ノスタルジーかもしれませんが、それこそが一朝一夕ではなく、長い時間かかって築き上げてきた伝統というものであるのではないでしょうか。さらに高校生のパワーにはいつも驚くばかりで、ハードスケジュールのバス移動に応援生徒は文句も言わず、応援練習もできないままの本番でしたが、一糸乱れぬ応援をしてくれました。今までの勤務校では、夏の大会では夏季講習も休止して、何度も全校応援の対応をしましたが、只見高において聖地で応援させていただいた幸せにも感謝しております。

1年目の冬も大雪で、職員室の窓から野球部が、二面雪のグランドのクレバスの中で、投球練習をしており、豪雪地帯の練習の厳しさを知りました（その時撮影していた写真が21世紀枠の東北代表決定時のスポニチに採用されています）。今でも只見高ファンの一人であり、試合前の「ホームラン」「週刊ベースボール別冊春季号」は購入済みですが、試合後の只見高特集の「甲子園の星」「別冊若葉号」「報知高校野球」等々も、もちろん購入しています。大島高校（元同僚がいます）のように次の甲子園を遠くから応援しております。

友情応援



兵庫県立東灘高等学校と神戸鈴蘭台高等学校ブラスバンド部（寒空の下、夜遅くまで応援ありがとうございました。）

■福島県立只見高等学校野球部甲子園出場までの経過

日　程	内　容
令和3年11月10日（水）	只見高校が選抜高校野球21世紀枠福島県推薦校に決定
令和3年11月26日（金）	選抜高校野球21世紀枠福島県推薦校表彰式（只見高校会議室）
令和3年12月10日（金）	只見高校が選抜高校野球21世紀枠東北地区候補校に決定
令和3年12月13日（月）	第1回只見高等学校野球部甲子園出場準備委員会
令和3年12月14日（火）	第94回選抜高等学校野球大会21世紀枠東北地区候補校表彰式 （只見高校体育館）
令和3年12月20日（月）	野球部が只見町長・只見町教育委員会教育長へ表敬訪問
令和3年12月24日（金）	カウントダウンボード設置（町寄贈）
令和4年　1月18日（火）	第2回只見高等学校甲子園出場準備委員会
令和4年　1月19日（水）	選抜高等学校野球大会東北地区候補校決定懸垂幕設置（町寄贈）
令和4年　1月28日（金）	第94回選抜高等学校野球大会出場決定 祝甲子園出場決定懸垂幕設置（町寄贈）
令和4年　2月　1日（火）	福島県立只見高等学校野球部甲子園出場後援会設立総会
令和4年　2月15日（火）	第2回福島県立只見高等学校野球部甲子園出場後援会 甲子園出場大会記念誌業者選定審査会
令和4年　2月24日（木）	野球部が福島県知事・福島県教育委員会教育長へ表敬訪問
令和4年　2月28日（月）	旅行業者選定審査会
令和4年　3月　4日（金）	組み合わせ抽選会（オンライン） 3月21日（月・祝）第3試合　対戦：大垣日大高校（岐阜県）
令和4年　3月　9日（水）	野球部甲子園出発式（只見振興センター）
令和4年　3月18日（金）	雨天のため甲子園開幕が順延
令和4年　3月19日（土）	甲子園開幕
令和4年　3月21日（月祝）	全校応援団出発式（只見振興センター）
令和4年　3月22日（火）	対大垣日大高校戦（ナイター）
令和4年　3月23日（水）	全校応援団解団式（只見振興センター）
令和4年　3月24日（木）	野球部帰校式（只見振興センター）
令和4年　3月30日（水）	第3回福島県立只見高等学校野球部甲子園出場後援会
令和4年　7月27日（水）	第4回福島県立只見高等学校野球部甲子園出場後援会

念ずれば花開く。「苦の中に光あり」

只見高等学校 野球部監督 長谷川 清之

1 選抜が決定した瞬間のお気持ちは、いかがでしたか。

校長室での事でした。正直、頭の中が真白になりました。自然と嬉し涙が込み上げて来ました。

2 長年の指導で力を入れてきたことは、どのようなことですか。

挨拶や礼儀、野球の厳しさや楽しさはもちろんのこと、最後まであきらめない、チームが一つとなる全員野球が持ち味(目標)

3 例年以上に豪雪でしたが、大会へ向けての準備は、いかがでしたか。

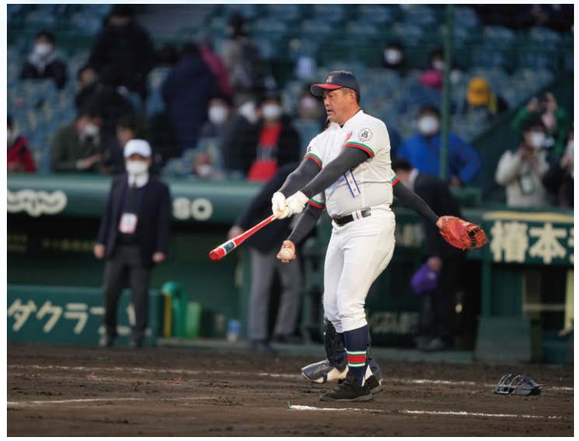
出場が決定してからはまず、練習グラウンドの確保、高校、社会人時代の球友、OBなどにお願いし、県内外への合宿、遠征、練習試合を組み準備を進めていましたが、コロナ感染が広がり、遠征、宿泊の自粛に苦労しました。例年ですと3月中頃から、雪国只見から土のグラウンドを求めて春の遠征となるが、2月上旬から県南、いわき、相双地区への遠征を行いました。甲子園へは、3月9日出発。試合まで、現地での練習時間の確保が出来たので、守備、バッテリー連携、投手の投げ込みなどが出来ました。しかし、最後まで打撃力の不安はありました。

4 町民をはじめ、関係者の反響、盛り上がりはいかがでしたか。

只見高校から甲子園、夢の甲子園が現実となり、県内はもちろん、県外からも祝福の声をいただきました。また、東北代表に選考された時、表彰式には、各県の理事長が、只見高校まで足を運ぶ異例の事態となりました。

5 選抜を振り返って、選手たちの戦いぶりはいかがでしたか。

入場行進もなく、前の試合(星稜対天理)が終了し、はじめて甲子園に足を踏み入れました。シートノックでは、エラー有、暴投有でどうなるかと思いましたが、試合では、ダブルプレー、盗塁阻止、牽制アウト、会津勢初の1点、それもタイムリーヒットであり、当たり前を当たり前にプレーしました。13人に大きな力を感じました。



HASEGAWA SEISHI

6 選手時代を含め、2回目の甲子園でした。監督としての甲子園の舞台は、いかがでしたか。

学法石川の4番(センター)時代に初めて甲子園の舞台に立ち、38年ぶりに今度は監督の立場、高校時代の恩師の言葉で、「苦の中に光あり」今までの思いが、あの甲子園のナイトゲームで一層光を感じとれた2時間でした。

7 監督にとって、今回の甲子園とは。

すべての高校球児が追い求め夢見る場所、周りの協力なしでは、実現出来ない所

8 帰校式時、こみ上げるものがあったかと思いましたが、何を思っていましたか。

200人以上の町民が出迎える中で、選手、マネージャー15人が無事に甲子園から帰れたことです。全員が甲子園でプレー出来た事に肩の荷が一つ降りたことで、ホットしました。

9 今後、選手たちに期待することは。

初心にかえり、全員野球、全力プレーで、最後まで白球を追い求めてもらいたい。

10 今後の野球部の展望と選手育成については、いかがですか。

もともと部員数、生徒数が少ない中で、安全に選手育成、強化が出来るように、球場の整備、ナイター施設の充実など、野球部存続はもちろん、部員確保にも力を入れたい。

11 最後に、町民をはじめ全国の皆さんにメッセージをお願いします。

今回の「第94回選抜高等学校野球大会」出場に際し、多大なる激励心より御礼申し上げます。21世紀枠はもちろん、夏の大会を含め、再度、甲子園を目指せるチーム作りを実行していきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

12 その他監督からあれば、何でもお願いします。

念ずれば花開く。「苦の中に光あり」

楢葉事前合宿SNAP

2022.2.26~27

福島民友新聞社撮影

楢葉町SOSO.Rならはスタジアム(豪雪地帯で只見町では練習ができないため、土のグランドを求めて浜通り地方での合宿)

2021.9.25

4回戦

会津学鳳戦

会津学鳳	200	200	010	5
只　見	001	101	04×	7

■試合時間／2時間26分　［ヨーク開成山スタジアム］

快進撃！創部初のベスト8

第73回秋季東北地区高校野球福島県大会で、只見高校は、会津学鳳高校に7対5で競り勝ち、創部初のベスト8入りを果たした。この日は、初回に2点を先制され、終盤の8回まで5点を許すなど、その後3点を返したものの常に2点差を追いかける厳しい展開となった。しかし、8回に同点に追いつき、ねばり強いバッティングで長打も重なり、一挙に4点をもぎとり、逆転により勝利をつかみ取った。

渡部茉子マネージャー

長谷川監督

【只　見】

		打	得	安	点	盗	犠	球	振	率
⑧	酒井怜	3	0	1	0	1	1	1	1	.333
⑨2	山内優	4	1	2	3	1	0	1	1	.400
⑤	鈴木	3	2	0	0	0	2	1	1	.385
④1	室井	4	0	2	3	0	0	1	0	.214
⑥	吉津	3	0	0	0	0	1	1	0	.083
③	渡邉	3	1	1	0	0	0	1	0	.222
②	山内友	1	0	1	0	0	1	0	0	.333
4	山内太	1	1	0	0	0	0	1	0	.250
⑦	大竹	1	0	0	0	0	0	0	0	.167
7	羽染	2	1	0	0	0	0	1	1	.000
①9	酒井悠	3	1	1	0	0	1	0	0	.100
		28	7	8	6	2	4	9	4	.247

投手	回	打	投	安	振	球	責
酒井悠	4	19	65	8	0	1	2
室井	5	17	57	3	4	2	0

4番室井の勝ち越しタイムリー!決勝点をたたき出す

粘り強い守備が終盤の逆転につながった。左側から吉津、鈴木、山内（太）

勝負強い山内（優）8回裏に同点に追いつく

監督の指示に集中し、円陣で士気を高める

いざ決戦!準々決勝進出をかけて

力投する先発 酒井（悠）

2021.9.26

準々決勝

いわき光洋戦

只　見	000	000	000	0
いわき光洋	006	000	00×	6

■試合時間／2時間11分　［ヨーク開成山スタジアム］

全力疾走！充実した戦いに幕

只見高校は、初の準々決勝の舞台で、上位進出の常連校である格上のいわき光洋高校に0対6で敗戦し、夢にまで見たベスト4入りを逃し、これまでの勢いにのった快進撃の戦いに幕を閉じた。この日は、3回に一挙6点を許すなど、常にいわき光洋高校が主導権を握り、只見高校は、打線のつながりを欠くなど厳しい展開となった。3回以降は、得点を許さず、全力疾走でチャンスの流れを引き寄せたかったが、今回は、勝利の女神は微笑まなかった。

齋藤花穂マネージャー

顧問の根本教諭

【只　見】

		打	得	安	点	盗	犠	球	振	率
⑧	酒井怜	4	0	1	0	0	0	0	0	.308
②	山内優	4	0	1	0	0	0	0	0	.357
⑤	鈴木	3	0	0	0	0	1	0	0	.313
④1	室井	4	0	0	0	0	1	0	1	.167
①9	酒井悠	4	0	0	0	0	0	0	1	.071
③	渡邉	4	0	1	0	0	0	0	1	.231
⑥	吉津	4	0	1	0	0	0	0	0	.125
⑦	羽染	2	0	0	0	0	1	1	0	.000
⑨4	山内太	2	0	2	0	0	0	1	0	.000
		31	0	6	0	0	2	2	3	.234

投手	回	打	投	安	振	球	責
酒井悠	3	14	68	8	1	2	1
室井	5	16	74	3	3	4	0

相手の猛追を抑え込む室井

ブルペンから支える山内（友）

小柄ながらも長打も放った山内（太）

運命の一戦プレーボール！

落ち着いてプレーする只見ナイン　左側から酒井（悠）、山内（優）、山内（優）、羽染

監督の指示に耳を傾ける只見ナイン

ピンチでも落ち着きを失わない只見ナイン

クイック牽制タッチアウト！

前只見高等学校
校長

伊藤　勝宏

「全力疾走」のその先に…

私は、令和4年1月28日午後3時過ぎ、選抜高等学校野球大会事務局から「21世紀枠代表校として甲子園大会に出場していただけますか?」と電話がかかってきたとき、思わずガッツポーズをしてしまった校長です。これにより只見高校は、第94回選抜高等学校野球大会に21世紀枠で出場することになりました。

只見の地は、今年の冬も3メートルを超える豪雪となり、新型コロナウイルスの感染拡大も絡んで、甲子園に向かうための練習や準備は大変厳しい状況でした。しかし、多くの皆様からのご支援と、福島県並びに県教育委員会からのバックアップもあり、また地域の皆様からは熱い声援を受けて、何とか野球部を甲子園に送り出すことができました。

令和4年3月22日(火)大会4日目の第三試合、本校野球部は岐阜県の大垣日本大学高等学校と対戦しました。試合当日は、午前中まで雨だったために試合開始が遅れ、午後6時過ぎのプレイボールでした。結果は1対6で敗れはいたしましたが、随所に、雪深い会津の野球部らしい粘り強い守備と、本校野球部の合言葉である「全力疾走」で走り抜け、試合中盤には選手一人一人がつないでつないでタイムリーヒットで1点を取ることができました。甲子園に只見の名を刻むことができたと本当に涙したのを覚えています。選手は、試合を終始笑顔で終えることができて、まさに夢の甲子園であったと思っています。寒風吹きすさぶ中での試合ではありましたが、只見グリーンで埋め尽くされたアルプススタンドの熱気は、兵庫県立東灘高等学校と兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校のブラスバンド部員による熱い友情応援も重なり、選手と応援団が一体となって甲子園での夢の2時間を過ごすことができたと考えています。この結果、選手の戦う姿だけでなく、スタンドでの全校応援の様子も含めて、只見高校のモットーである「小さな学校の大きな可能性への挑戦」を、甲子園という檜舞台で十二分に体現することができたと思っています。

現在、本校野球部は、この夏の大会で再び甲子園に出場するという次の目標達成のために厳しい練習に励んでいます。今回の甲子園大会出場では、只見という奥会津の一地域の歓喜にとどまらず、新潟福島豪雨災害で被災した只見線が、今秋、10年ぶりに全線再開通することも重なって、会津地域全体で大きな反響を巻き起こしました。これも一重に、本校野球部をご支援くださいました只見町様、福島県高等学校野球連盟様をはじめとする関係各位、そして、野球部のために貴重なご寄付をくださいました多くの皆様のお蔭であると思っております。皆様のご支援に深く感謝を申し上げますとともに、今後も、本校と本校野球部のため、更なるご協力を賜りますようお願い申し上げ、甲子園大会出場の御礼の挨拶といたします。

只見高等学校
校長

伊藤　靖隆

「歩み」をつなぐ

このたび、第九十四回選抜高等学校野球大会出場記念誌を発刊するにあたり、本校野球部にご支援ご声援を賜りましたすべてのみなさまに心より御礼と感謝を申し上げます。

昨年の秋季東北地区高等学校野球福島県大会で本校野球部は、春・夏・秋を通じて初めてベスト8に入るという快挙を成し遂げたことにより、豪雪地帯にあり冬場は厳しい練習環境にあることや新潟・福島豪雨で被災し、困難を乗り越えて野球に打ち込んできた点などが評価されたことが、二十一世紀枠での出場に結びつきました。これは、これまでに築き上げてきた「逆境に負けない真摯な取組」という本校の歩みが『センバツ出場』という形で全国的に評価されたことでもあり、すべての学校関係者や只見町の住民のみなさまにとって大変励みとなる誉れをいただく機会となりました。

今年度の人事異動により四月に校長として赴任して以来、「センバツ出場」の喜びや誇りが、決して一過性にとどまることなく、本校や地域の振興を牽引していることを肌で感じ新鮮な毎日を送っています。

甲子園では大舞台に臆することなく、正々堂々と持てる力を発揮し、強豪の大垣日大相手に最後まで戦い抜くことができました。また、負けはしたもの、悲願の一点をもぎ取ることができ、試合の随所で、しっかりと『全力疾走』し、ベストゲームをやり遂げられたことは、会津地方をはじめ県内の球児に良い刺激になったものと確信しております。

試合から三ヶ月を過ぎた現在においても、甲子園のそうした活躍について様々な方々より「勇気と元気、希望を与えるプレーだった」とねぎらいのお言葉をかけていただいております。

今後もさらなる学校の発展や地域振興の充実に向けて、野球部の活動をはじめ、すべての教育活動において、しっかり前を向いて確かな歩みを積み重ねて参りたい所存であります。

みなさまにおかれましては、本誌をご高覧いただき二〇二二年春のセンバツの感動を再度温めくだされば幸いです。重ねて本校野球部はもとより、本校の教育活動に対しまして、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

只見町長

渡部　勇夫

勇気と感動をありがとう

第94回選抜高等学校野球大会に「21世紀枠」出場決定の吉報を聴き、町では防災行政無線によって全町民にお知らせしました。

決定の瞬間、私は職員と共にパソコンの画面を見ながら、何度も「只見って言ったよな。」と確認しあいました。本当に心の底から喜びが溢れた感動の瞬間でした。

選手・マネージャーの皆さんの頑張りとともに、長年にわたりご指導された長谷川監督並びに関係者の皆様に改めて深い敬意を表する次第であります。

豪雪地域であることや部員数が少ないことを困難な理由とするのではなく、その環境を常とし、「全力疾走」や「小さな学校の大きな可能性への挑戦」が現実となった瞬間でした。

甲子園の試合も雨による順延や前試合の延長戦によって、経験したことのない初めてのナイター戦になりました。

私も皆さんと共にスタンドから応援しましたが、只見高校の校歌が流れたときは、目頭が熱くなりました。

選手たちは、強豪校相手に堂々と爽やかな素晴らしいプレーを随所に見せてくれました。そして、選手全員を起用された監督の采配にも感銘いたしました。

町民の皆様や只見町ご出身の方々はじめ全国の皆様から本当に温かいご支援をいただき、驚きと共に言葉に表しようのない感謝の気持ちでいっぱいです。

本当に本当にありがとうございました。

今年、役所広司さん主演の映画「峠」が全国上映されました。これは長岡藩家老であった河井継之助が只見町塩沢で没するまでが描かれています。

映画で使用された「盡己(じんき)」という書を小泉監督から「只見町にこそこの書は相応しい。」という言葉を添えて贈呈いただきました。

この意味するところは、まさに己を尽くすであり、事に臨むにあたって臆せず驕らずひた向きな姿勢は、只見高校の野球部の姿勢と同じものを私は感じました。

この度の只見高校野球部の事績と姿勢を只見町は、まちづくりに引き継いでいかなければならないと思います。

更に、只見高校を友情応援していただいた兵庫県立東灘高等学校並びに神戸鈴蘭台高等学校ブラスバンド部の皆様に感謝申し上げます。

また、大会出場準備に当たっては初めての経験ばかりで戸惑うこともあったことと思いますが、選手のためにご尽力頂いた事務局である学校関係者の皆様にも感謝申し上げます。

結びに多大なご尽力を賜った福島県高等学校野球連盟の皆様に心から感謝申し上げますとともに、只見高校をご支援、ご声援いただいたすべての皆様のご健勝を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

只見高等学校
甲子園出場
後援会会長・同窓会会長

目黒　敏男

夢・元気・感動ありがとう

只見高校は、昭和39年に独立して、現在の只見高校となりました小さな高校です。

第94回選抜高等学校野球大会の出場は、学校関係者、先輩方、町民の方々の大きな夢でもあり、喜びであったと思います。これも高野連関係者の協力があったから出場できたと思います。本当にありがとうございました。

令和4年1月28日、21世紀枠出場決定の吉報を只見高等学校校長室で、学校関係者、報道関係者と待機していました。出場決定の一報が入ると、待機していた関係者達の大きな拍手がおこりました。高校野球球児の夢である決定は、本当に夢の様な気持ちになりました。出場が決定したとはいえ、まだコロナ禍がおさまらない中、誰も経験した事のない不安ばかりで、校長先生、事務長、同窓会、雪椿会、PTA、野球部保護者会、野球部OB会、町長さんはじめ、多くの町民の方々の協力をいただきました。

甲子園出場決定後は、町内はじめ、全国各地から支援をいただき本当にありがとうございました。甲子園大会までの練習は、土の上で練習させたいと、片道何時間もかけ、監督自らがマイクロバスのハンドルを握って運転して、雪があまり降らない浜通り地域に遠征し、練習に励んできました。本当にご苦労様でした。

入場行進もコロナ禍の影響で、1日目の3試合の6校だけで行われました。他のチームは、ビデオで紹介され、只見高校は、3mもある雪の壁の中での入場行進でした。野球部15人という少人数と共に、全国の人たちに感動を与えてくれたと思います。試合は、最初の日程よりも遅れ、今まで経験した事のないナイターでの試合になりました。対戦相手の岐阜県代表の大垣日大に1対6で残念ながら敗れはしましたが、初出場とは思われない程、堂々と試合をしてくれました。

最後まで野球部のモットーである「全力疾走」、常に笑顔で全員で試合をしてくれました。応援も町民の方々、東京只見会をはじめ、各地から多くの人たちが甲子園球場に足を運んでいただきました。また、神戸市の東灘高校と神戸鈴蘭台高校の友情応援、甲子園に行けなかった町民の方も季の郷湯ら里でパブリックビューイングで応援してもらいました。試合後も各地の人たちから暖かいメッセージをいただきました。

最後に、只見高校野球部が甲子園に出場するに際し、各方面から多大なる御支援を賜り誠にありがとうございました。これからも只見高校発展のための御支援・御指導よろしくお願いします。

只見町教育委員会
教育長

渡部　公三

只見町に誇りと勇気

第94回選抜高等学校野球大会において、只見高校野球部は全員野球・全力プレーで素晴らしい試合を見せてくれました。改めて心から「感動をありがとうございます」と申し上げます。

只見高校野球部は僅か15名の少人数であり、また冬期間は積雪により屋外練習が制限されるなどのハンデがあります。只見町はこの冬3mを越す豪雪に見舞われ、さらに新型コロナウイルス感染拡大が続く中で、例年以上に練習は困難であったことと思います。そのような困難を乗り越え、長谷川監督の情熱と指導のもと、吉津塁主将がチームをけん引し、ハンデをバネに工夫を凝らして練習を積み上げた結果、甲子園の大舞台で「笑顔」そして「全力疾走」のプレーを見せてくれました。その姿は町民はもとより、全国の高校野球ファンに共感と感動を与えてくれました。午後6時26分開始という過去の記録を更新する遅い試合開始にもかかわらずアルプススタンドには多くの町民や関係者が応援に駆け付けました。そして友情応援に神戸市の東灘高校と神戸鈴蘭高校が合同ブラスバンドを結成し吹奏楽で応援してくれました。町民や関係者の熱い声援と迫力ある演奏が甲子園に響き、選手達はどれほど励まされたことかと思います。試合は大垣日大と対戦し残念ながら1対6で勝利には至りませんでしたが、只見高校が上げた1点は、会津地方の学校として甲子園大会初の得点ということで後世に残る活躍として語り継がれることと思います。

只見高校野球部の甲子園出場は、長谷川監督、学校関係者、御家族、地域住民、多くの関係各位の支えによって達成された偉業であります。只見町の児童・生徒をはじめ、町民にも大きな夢と感動を与え、只見町に誇りと勇気を与えてくれました。そして、只見高校の発展、振興にも大いに寄与するものと思います。

結びに、今回の甲子園出場にあたり、ご支援ご声援いただきましたすべての皆様に心より感謝とお礼を申し上げ挨拶といたします。

甲子園出場後援会
副会長・
雪椿会会長

目黒　長一郎

素晴らしい試合展開、そして感動をありがとう！

第94回春の選抜高等学校野球大会に、21世紀枠として会津地区では63年ぶりに代表校として選出されました。

冬期間のグラウンドでの練習ができない中で、野球部の皆さんはいろいろな工夫を凝らした練習に取り組み、高校野球の聖地である甲子園球場ではチームのモットーである「全力疾走」を貫き、その姿は、町民はもとより会津や県内を含め多くの皆様に感動を与えました。

甲子園の試合では、初めての大舞台で臆することなく、のびのびと全力でプレーし全国の多くの方々から賞賛の言葉をいただきました。私はアルプススタンドでの応援には行けませんでしたが、テレビの前で応援しながら、その頑張りに感極まったことを思い出しました。

試合では対戦相手の「大垣日大高等学校」に1対6で敗れはしたものの、選手はもとより、在校生や先生方、町内外の皆様、友情応援をいただいた兵庫県立東灘高等学校、神戸鈴蘭台高等学校、両校のブラスバンドなど、多くの方々のご支援をいただき、最後まで諦めずに全力で戦ってくれました。全国に「只見」の名を広めることができたと思っております。

只見高等学校雪椿会としましても学校やPTA等と一丸となって、これからも只見高等学校発展のため尽くしてまいりたいと考えております。

今回の甲子園出場にあたり、ご協力いただいた関係者の皆様には心から感謝申し上げますとともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

只見高等学校
野球部OB会会長

鈴木　好行

全ての人々に感謝

第94回選抜高等学校野球大会出場おめでとうございます。

思い起こせば私の甲子園への期待は令和3年9月25日の会津学鳳戦に勝利し、ベスト8に勝ち上がった時から始まりました。それから21世紀枠での県の候補校となり、東北の候補校となり、そして運命の令和4年1月28日、福島県高野連木村保理事長の強い推薦もあり、見事に全国3校の代表枠に選考されました。木村理事長には改めて深く感謝申し上げます。

試合当日、甲子園球場での晴れ姿を応援している人の中に多くの野球部OBがいました。皆、それぞれの時代に甲子園を夢見て練習していた人たちです。部員数が足りなくて他のクラブから応援を受けて出場したこともありました。野球部員の保護者が集まってブルペンに屋根を作って下さいました。新入生の部活はグラウンドの雪堀から始まりました。皆、それぞれの時代に、それぞれの思い出を持ちながら、アルプススタンドで応援していました。

試合結果は敗戦となりましたが、内容は素晴らしい試合でした。「全力疾走」をモットーにはつらつと楽しくプレーしている姿は、スタンドで応援している人だけではなく、テレビを見ている全ての人たちにも感動を伝えられる試合でした。

只見高校野球部甲子園出場は只見町だけでなく、全会津に影響を与えたと思っています。21世紀枠での出場が決まると様々な方から連絡をいただきました。支援の輪は瞬く間に広がって、資金の調達もできました。又、試合後はたくさんの方々から「素晴らしい試合だった。ありがとう。」というお言葉をいただきました。まさに「会津は一つ」になった瞬間ではなかったかと思います。

甲子園出場に当たり、たくさんのご支援、ご声援をくださった全ての皆様に改めて深く感謝申し上げます。

そして長谷川監督、野球部の皆さん、多くの感動をありがとうございました。皆さんは様々な方の支えを忘れず、「甲子園に帰る」を目標に頑張って下さい。

只見高校野球部
保護者会会長

吉津　健

「大きな可能性への挑戦」へ感謝

第94回選抜高等学校野球大会21世紀枠出場にあたり、野球部甲子園出場後援会の皆様、只見町民の皆様はじめ、県内外全国各地から、沢山の温かいご声援とご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。

今回、1回戦で大垣日大に敗れはしましたが、夢の舞台である甲子園で選手13人全員が出場し、甲子園初得点を刻み「笑顔で全力プレー」ができましたことは、保護者一同感無量であり、部員と共に一生の宝となりました。また、多くの皆様から「感動をありがとう」・「大きな勇気をもらった」・「高校野球の原点のような試合だった」などの沢山のメッセージをいただいたことも忘れられません。

最後になりますが、甲子園出場にあたり友情応援をしてくださった吹奏楽部の皆様、そしてご尽力いただきましたすべての関係者の皆様に感謝申し上げますと共に、今後とも、本校野球部への変わらぬご支援、ご声援を賜りますよう、お願い申し上げます。

只見高等学校
前PTA会長

新國　善之

感動の甲子園

去る1月28日、只見高校の「第94回選抜高等学校野球大会」21世紀枠での出場が決まり、2月1日には、甲子園出場後援会設立総会を立ち上げ、出場に向けて準備が始まりました。募金活動では、地域の方々や県内外、全国からの温かいご支援を頂き感謝申し上げます。そして、甲子園、初めて見るアルプススタンドと選手の堂々としたプレーに感動しながら試合を観戦しました。試合は、対戦相手の大垣日大高校に1対6で敗れてしまいましたが、選手たちのプレーは素晴らしく、福島の人々に感動と勇気を与えたに違いありません。友情応援に協力してくださった兵庫県立東灘高等学校、神戸鈴蘭台高等学校の皆さんの協力で試合を盛り上げることができました。本当にありがとうございました。試合終了後、「いい試合だったなあー」と周りの人たちからの声が聞こえてきました。最後に、甲子園に連れてきてくれた選手たちにありがとうございましたと感謝の意を表します。

只見高等学校
PTA会長

本名　俊之

小さな学校の大きな可能性

只見高校野球部が「第九十四回選抜高等学校野球大会」に二十一世紀枠として出場し、大舞台でも臆することなく、清々しい試合を見せてくれました。その試合は選手のみならず応援に駆け付けた生徒たちのほか、観戦する我々にも深い思い出となる試合になりました。

山村教育留学生を含むわずか15人のチームですが、豪雪地域という困難な練習環境であるにも関わらず、礼節を重んじて全力でプレーする姿は、過疎が進む地域の小さな学校の名を十分に広めてくれたと思います。

今回の出場にあたり吹奏楽の応援で試合を盛り上げていただいた東灘高校、神戸鈴蘭台高校の方々には大変感謝しております。また出場に際し、ご協力いただいた関係者の方々には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

只見高等学校
野球部主将

吉津　塁

15人でつかんだ栄光

新チームが発足する際、例年通りの取り組みではなく、本気で甲子園を目指そうとチームに話し、練習をスタートしました。私達の代は、最初から勝てるチームではなく、特に夏休み期間の練習試合では、負けが続いていました。このため、練習の際には、一球のミスに対して自分達で厳しく言い合い、課題を克服するために、常に緊張感を持って練習に励んできました。その成果が実り、秋季大会でベスト8という成績を残し、さらに只見という豪雪の地で野球をしていることが評価され、21世紀枠で初の甲子園出場を果たすことができました。甲子園の舞台は、想像していたより何倍も広く、大きく感じました。選手13人、マネージャー2人の15人という少人数で戦い抜いた1時間53分は、私達の人生にとって、かけがえのない大きな財産となりました。

最後になりますが、全国の皆様から多くのご支援、温かいご声援、誠にありがとうございました。今後も後輩たちが、甲子園の舞台に立つことを願っています。

只見高等学校
生徒会会長

岩佐　優生

希望

私が只見高校に来た際、この学校が甲子園に出場できるとは、夢にも思いませんでした。学校から帰る途中、グラウンドを横切ると、いつも聞こえてきた野球部の力強い声が、3月22日に甲子園でも響き渡りました。

全校生徒100人に満たない只高生に加え、只見町や全国から多くの方が応援に駆けつけ、選手の活躍を見届けることが出来ました。試合中、常に笑顔でプレーする姿を見て、こちらも楽しくなる場面が多く、選手と同じ気持ちを共有することが出来たのかなと思います。クラスにいる時とは異なる真剣な野球部の姿を見て、私たちも野球部のように目標に向かって努力していきたいと思いました。

今回、第94回選抜高等学校野球大会へ出場した野球部のみなさん、また多くの関係者の方々、本当にお疲れさまでした。私たちに多くの希望を与えてくれてありがとうございました。引き続き、野球部の活躍に期待し、応援していきたいと思います。

福島民報社
南会津支局長

丹治　隆

町民を一つにした只見高野球部の偉業

二〇二二(令和四)年一月二十八日午後三時過ぎの只見高の校長室。伊藤勝宏校長がガッツポーズを見せた瞬間、私も地元紙の記者としてうれしい気持ちで一杯になりました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で取材は困難を極めました。感染防止のため選手らへの接触は制限され、現地支局長として非常にもどかしい思いをしました。慣れないリモート取材などを重ねながら何とか直前で特集紙面を仕上げることができました。

只見町は以前から一体感のある町だと取材を通じて感じていましたが、只見高のセンバツ出場を経てさらに町民の一体感が高まったように思います。地域活性化という意味でもナインの偉業が町にもたらしたものは大きかったと思います。

最後になりますが、準備段階から松田香樹事務長はじめ只見町の関係者の皆様には大変お世話になりました。貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。

福島民友新聞社
南会津支局長

中田　亮

豪雪をも溶かす只見ナインの熱

雪はしんしんと降り積もり、只見町の積雪は2メートルを優に超えていたと記憶する。2022年1月28日、只見高校野球部が第94回選抜高校野球大会(センバツ)の21世紀枠に選ばれた。甲子園出場を知り喜びを爆発させる只見ナイン、涙を浮かべながら選手たちの前であいさつする長谷川清之監督。雪をも溶かす熱気と感動が只見町を包んだ。

甲子園球場で3月22日、大垣日大(岐阜)との初戦に臨んだ只見ナイン。私は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、只見町で町民と声援を送りながら取材を行っていた。「強豪相手に試合になるのか」と不安視する声もあったが、只見ナインは夢の舞台で輝きを放った。「これぞ高校野球」。彼らの笑顔とプレー一つ一つに胸を熱くした。甲子園出場に立ち会えたこと、現地記者として只見ナインと学校関係者、町民の皆様に心から感謝申し上げたい。

只見高等学校
野球部臨時コーチ

渡部　彰

甲子園にふさわしいチーム

この度は第九十四回選抜高等学校野球大会に臨時コーチとして帯同させていただき、誠にありがとうございました。会津地区からの甲子園出場は私たち指導者にとっても悲願であり、同支部で戦う只見高校野球部の出場を誇りに思います。

「夏の大会の目標は?」「甲子園です。」「ハハハ。ホントは?」「……」。これは平成十三年、十八年ぶりに春季県大会に出場した只見高校に取材に来られた新聞記者の方と、当時監督をしていた私との会話です。冗談を言ったわけではなかったのですが…。そこから更に十九年、今回の出場に疑問を抱く人は誰一人いなかったでしょう。

私は「甲子園には甲子園にふさわしいチームが行く」と考えています。仲間の特徴を互いに理解し合った上で一つのプレーを完成させること、自分の役割を果たしつつ仲間のカバーリングを怠らないこと、感謝の気持ちを持ってひたむきに野球に取り組むことなど、チームと行動を共にすることで、その考えが間違いではないと確信することができました。

そして、大垣日大高校と堂々と戦う姿は、多くの方に感動と勇気を与え、只見高校野球部が、甲子園にふさわしいチームであることを全国に証明する形となったのではないでしょうか。

只見高等学校
野球部
帯同トレーナー

岡本　優紀

コンディショニングコーチとしての役割

甲子園では、コンディショニングコーチとして、チームに帯同いたしました。関西入りし、チームと合流した際、肉離れや肩痛などケガ人がいましたが、毎日施術を行い、結果的に全員が元気に試合に出場出来たことはこの上ない喜びです。

センバツ甲子園を通じて、様々な経験をすることが出来、選手一人一人が成長していく姿を間近で見ることが出来、コロナ禍で大変ではありましたが充実した日々を送ることが出来ました。

甲子園という特別な場所で素晴らしい試合をしたという事実は一生誇れる貴重な体験です。この特別な体験を野球はもちろん、この先の人生に役立ててほしいと願います。

私にとっても只見高校野球部と過ごしたセンバツ甲子園の日々は一生忘れることの出来ない、かけがえのない体験となり、また自信にもなりました。

これからも只見高校野球部をサポートしていきたいと思っています。

只見高等学校
野球部部長

鈴木　宏睦

当たり前の先にある甲子園

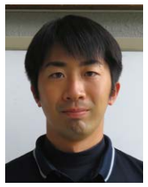
この度は、第94回選抜高等学校野球大会出場に際しまして、多大なるご支援を賜り誠にありがとうございました。甲子園の土を踏むことができましたのは、本校野球部の活動をいつも応援していただいた皆様の長年の思いがあったからこそだと感じております。

思い返しますと、「当たり前のことをできる人になろう。」と長谷川監督が選手に伝えた言葉が、甲子園出場のきっかけとなりました。新チーム発足時は、グラウンドにボールが落ちていることもあり、とても甲子園を目指せるチームではないと感じたのが本音でした。

そこから選手は「当たり前のことを当たり前にする」を合言葉に、野球以外の部分でも意識を高く持って生活するようになりました。その結果、県大会では接戦を制したり、逆転勝利を収めたりするなど、支部予選と見違えた姿を目の当たりにし、高校生の成長の早さに驚かされたことを覚えています。

また、日本有数の豪雪地帯や小規模校などの「困難な環境の克服」が選抜大会の選考理由となりましたが、選手たちにとってはその環境自体が「当たり前」でした。1人1人がそこでできることを「生懸命行い、根を張ってきた取り組みが、甲子園での「笑顔と全力疾走」、「会津地方初の得点」という結果に繋がったと感じております。

当たり前のことを当たり前にする大切さを学んだ選手たちが、社会で多くの方々を支え、活躍する人材となれるようこれからも導いていく所存です。今後も只見高校野球部がさらに豊かな活動ができますよう、一層のご声援ご協力をお願いいたします。



只見高等学校
野球部顧問

根本 修太郎

只見高校野球部の誇り

積雪3m、全力疾走、全校生徒100人未満、小さな学校の大きな可能性への挑戦…など、15人の取り組みや只見高校の環境が様々な言葉で紹介されてきましたが、このチームがスタートした昨夏時点では、彼らは野球がひたすら好きなただの「野球小僧」に過ぎなかったようにも思います。しかし、彼らは21世紀枠に選出される前から、野球技術以外の日常生活に目を向け、21世紀枠としてふさわしい行動や日常生活をしようと声を掛け合うことで人間的にも大きく成長を遂げてくれました。

甲子園で試合終了後の選手たちの表情は今までにない満足感と「もっとここで野球をしたい」という気持ちに溢れていたのを今でも思い出します。積雪やコロナ対策など、野球に取り組むために乗り越えなければならないハードルはありながらも、「野球が好き」という純粋で強い気持ちを甲子園で見事に体現してくれた15人を誇りに思います。

最後になりますが、この度の選抜出場に際しまして、多大なるご支援ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

【校訓】

真摯　明朗　健康

◆真摯／知性を高め、高潔な人格を育てるために、日常生活すべてに対し真摯な心構えであること

◆明朗／明朗な性格を育て、互いに正しい理解と友愛の心を持って協力し、社会人としての資質を養うこと

◆健康／あらゆる活動の源泉は健康より生まれることを認識し、健全な生活を送るために強靭な健康体をつくること

編集後記

今思い出せば、11月の県推薦校、12月の東北地区候補校となったことから、早めに準備委員会を立ち上げたところでしたが、誰もが半信半疑であったことは言うまでもありません。「正月に家族の話のネタにしてください、1カ月間いい夢を見させてもらいましょう。縁があれば年明けに再会しましょう」と言って、最後の委員会を閉じた記憶があります。

現実的となったのは、1月28日(金)午後3時すぎ、多くの報道各社が校長室で待機する中、日本高野連からの電話で正夢となり、誰もが予想できない展開のはじまりとなりました。予算も支援体制のノウハウもなく、すべてが初めての取組みとなり、裏方の事務としては、「無事に甲子園の土を踏ませることができるのだろうか」と頭がよぎったものです。2月1日(火)に後援会を設立してから、甲子園出場までの怒涛の日が続きました。当初の心配をよそに、毎日のように電話や来校での激励や只見町民をはじめとする全国からの多大な支援金をいただき、野球部の事前合宿・甲子園滞在費用やユニホーム等の購入費、在校生の応援費用等に充当することができました。この場をおかりして、あらためて心から御礼を申し上げます。

また、さらに重要な課題であったのは、甲子園までの練習環境の確保でした。只見町は、豪雪地帯で3mを超える積雪となっており、グラウンドは使用不可で体育館や駐輪場でしか練習ができないため、他地域に遠征をするしか方法はありませんでした。しかし、全国的なコロナ禍であり、宿泊合宿は不可となるなど練習環境はさらに制限される事態となりました。このため、週末を利用して、感染対策に細心の注意を払い、県内の中通りや浜通りの高校のグランドを借用させてもらい、長谷川監督が自らマイクロバスを運転して、往復４００ｋｍの日帰り遠征をすることしかできませんでした。ようやく2月末から宿泊が可能となり、週末にJヴィレッジに宿泊することで、楢葉町やいわき市で集中的な事前合宿を実施し、土のグランドでの感触をつかみ、制限がある中でも最大限の準備を行って甲子園に向けて出発しました。選手たちが、全力疾走で思う存分プレーをし、多くの方に感動を与えたことは、今でも昨日のことのように思い出されます。

最後に、記念誌の発行に当たり、原稿をお寄せいただいた皆様に御礼を申し上げます。また、只見町には様々御協力・御支援をいただいたことから、心より感謝申し上げます。福島県民をはじめ全国の皆様、応援ありがとうございました。

追伸　今回で事務的なノウハウは蓄積されたため、いつでも甲子園へ行く準備は整っています。再度、甲子園への道をつかみ取ってくれることを信じて

～未来は拓けています。次の主役は、君たちだ！～

只見高等学校甲子園出場記念誌編集担当

（只見高校事務長）　松田　香樹

【福島県立只見高等学校野球部甲子園出場後援会構成員】

名誉会長	渡部　勇夫（只見町長）
会　　長	目黒　敏男（同窓会会長）
副 会 長	目黒長一郎（雪椿会会長）
顧　　問	渡部　公三（只見町教育委員会教育長）
	高野　武彦（福島県会津地方振興局長）
	金子　市夫（前福島県南会津地方振興局長）
監　　事	新國　善之（前PTA会長）
会　　計	伊藤　勝宏（前校長）
	伊藤　靖隆（校長）
幹　　事	馬場　博美（只見町商工会事務局長）
	吉津　　健（野球部保護者会会長）
	酒井　文高（学校運営協議会委員長）
	増田　栄助（只見町総務課長）
	馬場　一義（前只見町教育委員会次長）
	菅家　　亮（只見町教育委員会次長）
	長谷川清之（野球部監督）
事 務 局	佐藤　　繁（前教頭）
	佐藤　秀昭（教頭）
	長谷部正隆（同窓会事務局長）
	鈴木　宏睦（野球部部長）
	根本修太郎（野球部顧問）
	松田　香樹（事務長）
	佐藤　　幹（主事）

只見高校　2022春 甲子園

第94回選抜高等学校野球大会 出場記念

発行日　2022年8月吉日

発行者　福島県立只見高等学校野球部甲子園出場後援会
〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字根岸2358
電話　0241−82−2148

編集・製作　株式会社 プラスヴォイス
〒980-0803　宮城県仙台市青葉区国分町1丁目8−14
仙台協立第2ビル8F
電話　022−723−1261

撮　影　三浦 宏之、松浦 謙、佐々木 崇志、藤井 理仁、長沢 啓史

印　刷　株式会社 三愛舎印刷